

熟懸れうかがふ。猶疑ひやまほさんと日向守があふとすりて。人質とは  
まゆらひされた。永く豪傑にあ置き。他年御房は御意に熟。小童も孝  
経渴しまゆを。防守に達の胸よりくべ。何國ふもあき。衆地の渴に在往  
き。金糸玉枝の末産とも。かこをあくべ。舉て大慶はくまむる。將軍度御來  
駕。今明日にも預をわし。亞て六御病氣にましまひ。憚るから小臣を  
そく西くよ。御宮御の輕重と伺ひまゆせ。朱よとの主食。御寢室まで振  
參りて存ぞるされば。遠條言是らきたりと。伺を繰て演をみぞ。近心中  
に又も、そと恩ひ。始終それらの應對して。徐に深院へ投げ下りる。然れ  
どふ順まへ署中は温袍の襲被したる。其利ふ衾二ほど壓する也。未完  
貌め中にて。蒸るもどうの若園。汗堪ぐとや庵。從来。そと詔退じ  
頭へ矣。火代若すかもぞ。折々に余もあらず。卑く衾と核をよ主ひ今

我ふど聽ざると。泣が如く怒ふねく。或へ枕を抛出し。或へ衾の襟を剥裂粗糲  
と。而も捺れといつども。左近が嚴しく言屬されば。六七人の庵徒。ま衾の  
とより掩覆て。坐ぬ後りざり。左近が。左近友行役來り。使者の本意  
を告ぐるにぞ。癸射面して。遠若と。道きん。其使と。急ぎを川も。薄尾庵を湯  
ふ。又をうとう。豫て條り。事あれば。乞ね。諭旨試ひ。散。粗人  
せぬ相手て。無射も。明ふ。知す。されば。傍より左近斟酌。附も。病  
の杞憂かれを。言語よ。施せし。方舟す。禍の起居も。安ゆ。然りとい  
て。ども今。庵徒に登る時を。何とく。川まど。從す。送らん。坐も。病氣半食  
に。歸まば。傾ふ。上洛は。かづ。至。万事比熟。候まし。われん。且。亦。明智。將  
軍。解。譯。は。俺们。國中の兵を。征集め。八幡。すう。たる。法螺。が。嶺の絕  
頂。また。出陣。つて。まう。そし。元秀公と。嘆。慶。と。今。よ。収め。汝。沐文。され